

「つながる」を伝える

音更町立共栄中学校
教諭 下倉 直江



1 具体的な取組

人と「つながる」のが苦手な教員が増えていると感じている。学生時代の経験や教育実習時の職場環境、プライベートでの人間関係などが影響しているのではないだろうか。建前や表面上での関係も結局は見透かされ、人とのつながりを保てず苦勞していると思われる。だからこそ、人と「つながる」ことを通して信頼関係を築く基盤を、職場で作ることが大切だと考えている。

【先輩教員が信頼される存在であるために】

- ・「本人の話を聴くこと」 悩みや思いを吐き出せる存在でいる。
- ・「周りの教員とつなげる」 本人が人間関係を築けるように、また、つながるように促す。
- ・「挑戦したい背中を押す」 挑戦を支え、失敗があれば必ずフォローをし、責めない。
- ・「必要な指摘をする」 ダメなことはダメと伝え、嫌われることも覚悟する。
- ・「自分は前に出ない」 努力し、成功したことは若手の実績とし褒め称える。



細かな持論や方法を伝えるのではなく、「つながった人脈」から学んでいくことを促している。不安や悩みを吐き出せ、失敗を支える信頼する先輩や大人が一人でも多く存在することは、今後の教育を担っていく教員にとって大事な糧になる。私一人ではなく、職場全体がそういった視点で関われるよう環境を創ることも、先輩教員に求められていることだと思っている。

2 今後に向けて

「つながる」を伝えることは、その人の魅力を育てることにもなり、また、交友関係も広がることで、教員という職のよさが最大限に学べるのではないかと考えている。

また、どんな仕事もたくさんの人の力で支えられている。私たち先輩教員自身が理解し、その周りの方々に感謝する姿勢を見せることで、人を大事にする「愛される若手教員」を育てたいという思いがある。

更に、全世代に共通して言えることとして、自分の時間を大切にすることと、同様に「多種多様な職業人や大人とつながる」ことを大いに推奨したい。それを示すためにも、自身が人間の幅や視野を広げ、自分自身が学び続け、少しでも周りから必要とされる存在でいられるよう努力していこうと思う。



まとめ

「子どもの成長を第一に考え、人と人をつなぎ、

共に学び続ける教師」を目標に。